

氏名 中矢 哲郎 (NAKAYA Tetsuo)

博士 (農学)

1974 愛媛県松山市生まれ (鳥取→千葉→静岡→埼玉に育つ)

1998 農業工学研究所 河海工水理研究室, 水利施設機能研究室
(スマトラ沖地震津波の調査, 水利機能診断, 簡易補修工法の開発など)

2012 農村工学研究部門 沿岸域水理担当, 水利システムユニット
(東日本津波調査, 水管理システムの開発など)

2024 農研機構 技術移転部 (兼水利制御グループ)



研究者の横顔

◇これまでやってきたこと

農業水利施設の診断, 補修, 災害対策, 水管理など幅広い業務に関わらせていただき, 農業水利の維持管理という面での調査や研究を一貫して経験することができました。農業用水路は毛細血管のように国土に刻まれているだけでなく, 弥生時代から千年単位で今も機能し続けていることは驚くべきものです。こうした広域にわたる水利施設の維持管理や日常の水管理作業は, 濁水や洪水など過酷な自然と対峙する中での安全性の管理, 多様化する農家への水配分など多岐にわたっており, 長くにわたり大変な苦勞でなされているものと痛感します。この持続性には我が国の農業水利の叡智が潜んでいると思えてなりません。

◇農業水利の水管理の持続性を石造物から紐解いてみる

今, 私はダイエットのために毎週 8km のランニングをしており, 自宅近くのつくば市の水堀地区を巡っております。歴史ある地区であることから道端には多くの江戸時代やもっと前からある石仏や石碑などの石造物があり, その趣や歴史, 背景に惹かれ苦難のランニングを継続できています。今回, 水管理の持続性を支えてきた一因について, 石造物を絡めながら思いを綴ってみたい。

石造物にはそれぞれ意味があり, 庚申塔である青面金剛明王像には, 日ごろ人々の悪事を監視している三尸の虫が庚申の日に天帝に報告に行くのを防ぐという役目があり, その日には人々が集まり寝ずに酒盛りなどをして夜を明かす風習がありました。無縁仏の石碑は人知れず非業の死を遂げた者や行き倒れのままになってしまった者への供養の意味があります。他者への勞り, 苦勞の共有, 少々の間違いは水に流すという許容, につながると感じます。水路や堰の脇には水神様として石造物が祀られていることがあります。祈雨 (濁水防止), 止雨 (洪水防止) を乞う対象として祀ってきたほかに, もう一つ, 大変な水管理作業の勞い, 癒し, という意味もあったのではと考えます。苦勞で大変な作業でありながら, 地域を守る重要な誰かがやらねばならないという意識の共有, 酒盛りや宴を通じた癒しや許容の場として持続的な管理に貢献してきたのだと思いを馳せます。

◇これからの水管理

コロナ禍以降, 庚申講の代わりに担ってきた (?) 飲み会はすっかり減りました。しかし過去の思いは石造物という形として残され, その歴史や思想も伝承されています。石造物の文化は, 目立たずとも地域を守る重要なもの, 勞りや許容の思いを後世に引き継いでいくために, 時代の流れとともに形を変えて伝わっていくと思えてなりません。



水堀地区の石仏